

研究分野		授業科目名				科目責任者	
生理系分野		女性機能病態医学特論Ⅰ・Ⅲ				(太田 啓明)	
開講年次		共通/専攻/選択		単位数			
1,2,3,4		特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択		特論Ⅰ：4(2/年), 特論Ⅲ：1/年			
目的							
(1) 婦人科腫瘍の診断, 治療法を習得するため, 婦人科腫瘍学を理解する。 (2) 婦人科腫瘍に関する研究の方法論を理解して, 研究を遂行できる能力を修得する。							
授業到達目標							
(1) 婦人科腫瘍の診断法を具体的に説明できる。 (2) 婦人科腫瘍の治療法を具体的に説明できる。 (3) 婦人科腫瘍に関する最新の論文を読み, その内容を理解できる							
授業計画							
回数	月日	曜日	時間	担当者	区分1	区分2	授業内容
1	毎月	第1・2・3・5月	18:00-19:00	太田 啓明	講義	[抄読会・症例検討会]	産婦人科学の英文論文を紹介し, それに対する考察・討議を展開する(産婦人科学1と合同)。 [場所:本館棟3階カンファレンスルーム他]
2	毎週	月	8:00-9:00	太田 啓明	講義	[症例検討会]	婦人科腫瘍学・産婦人科学1合同症例検討会 [場所:本館棟3階カンファレンスルーム他]
3	毎週	水・金	8:30-9:30	太田 啓明	講義	[症例検討会]	婦人科腫瘍学・産婦人科学1合同症例検討会 [場所:本館棟3階カンファレンスルーム他]
評価方法							
【特論Ⅰ】 (1) 1年間※で, 講義は30時間出席し, 科目責任者から履修手帳に出席印をもらい, 提出する。 (2) 1年間※で, 論文紹介または症例発表を2回行い, その要約2編を提出する。 【特論Ⅲ】 (1) 1年間※で, 講義は15時間出席し, 科目責任者から履修手帳に出席印をもらい, 提出する。 (2) 1年間※で, 論文紹介または症例発表を2回行い, その要約2編を提出する。 ただし, 特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文(症例)であること。 特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。 ※1~3年生は2月末まで, 4年生は11月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。42・43頁:単位履修方法参照。							
課題(レポート等)に対するフィードバック							
要約について, 添削して返却する。							
教科書							
ISBN-9784815918927, 症例から学ぶ婦人科腫瘍学入門(改訂第2版), 井上正樹, 永井書店, 2011							
参考書							
ISBN-9781441904881, Blaustein's Pathology of the Female Genital Tract (6th Edition), Robert J. Kurman, et al., Springer, 2011							
準備学習(予習・復習等)							
(1) 講義ごとに紹介する論文を次回までに読んでおく。さらに関係する文献を調べておくこと。 (2) 紹介された論文の要約を作成し, 関連事項について簡単にまとめる							
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
課題を探究し, 仮説立脚, 検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉する。							
注意事項・メッセージ							
婦人科腫瘍専門医の資格取得には, がん治療認定医資格の先行取得が必須となっています。							